

## みどりの現況とその特徴

### (1) みどりの概況

#### 1) 多摩市のみどりの特徴

多摩市のみどりは、昔ながらの多摩丘陵の里山を感じさせるみどりと、ニュータウン事業により新たに創出・再生されたみどりが、年月を経てつながりをもっていることが大きな特徴となっています。

市域の約59%を占めるニュータウン区域では、開発年代ごとに特徴を見せながら、近隣住区単位に公園緑地が系統的に配置され、それぞれの公園緑地は、歩行者専用道路や緑道によってネットワークされています。

一方、ニュータウン区域外では、新規の公園緑地整備とともに、借地公園等により公園緑地の確保を推進してきました。また、和田の日野市境や連光寺の稲城市境、関戸六丁目などでは地形に沿ったまとまりある既存樹林や農地などのみどりが多く残されています。農地は年々減少しつつありますが、その約半分が生産緑地地区に指定されています。

#### ■多摩市のみどりの特徴

多摩市は、下記の「昔ながらのみどり」と「新たに創出されたみどり」が、つながりをもっていることが大きな特徴となっています。

昔ながらの多摩丘陵の里山を感じさせる多摩のみどり



(関戸六丁目周辺)

多摩ニュータウン事業により新たに創出されたみどり



(多摩中央公園)

## 2) みどりの分布特性

多摩市のみどりの分布特性として、その概観を眺めてみると、以下のような特性が見られます。

連光寺周辺の丘陵部は都立桜ヶ丘公園を中心とする丘陵樹林が残されていて、市内でも最大規模の丘陵樹林帯です。また府中カントリークラブと中沢池公園を含む市域西端一帯にもまとまった樹林帯が残されています。

丘陵と低地部に挟まれた斜面樹林は、日野市との境界部や中和田通り沿いの斜面林、桜ヶ丘住宅地を取り囲む霞ヶ関緑地保全地区や旧鎌倉街道沿いの原峰公園からの斜面林、あるいは東寺方一帯の樹林等に地形を縁取る形で残されています。

多摩ニュータウン地区では、町田市との境界部である多摩よこやまの道の尾根部、貝取・豊ヶ丘地域の北部斜面、愛宕地区の南斜面などでは自然地形を生かした樹林がまとまって残されています。また、系統的に公園が配置され、斜面や法面についても緑地として整備されていて、豊かなみどりを保持しています。加えて豊かに植栽された公共施設や集合住宅の住棟間のみどりと各公園緑地、小中学校などが、歩行者専用道路や緑道によってみどりのネットワークを形成しています。

多摩川の河川敷には自然度の高い植生が維持されており、特に大栗川との合流付近は、野鳥が多く集まる生態系豊かな場所となっています。



図 2-8 多摩市の緑被分布 (出典：みどりの現況調査 - H22 (多摩市))

## (2) みどりの量

### 1) みどり率

東京都では、従来のみどりの量を把握する「緑被率」という考え方に、「河川等の水面の占める割合」と「公園内で樹林等の緑で覆われていない面積」の割合を加えた「みどり率」により、みどりの量を把握しています。そこで、多摩市においても東京都と同様に、今後は「みどり率」により、みどりの量の把握を行っていきます。

多摩市のみどり率は53.9%（1135.9ha）と市全域の半分以上を占めています。内訳は、公園以外の樹林地の占める割合が24.9%（525.2ha）と最も多く、次いで公園の占める割合が15.4%（324.4ha）、となっています。

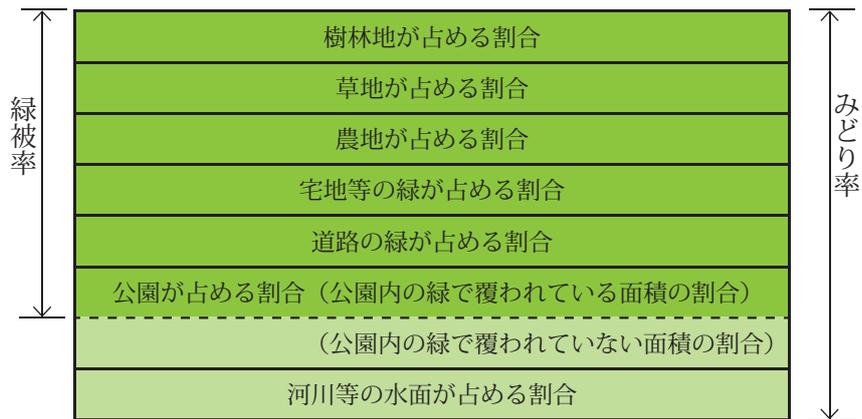
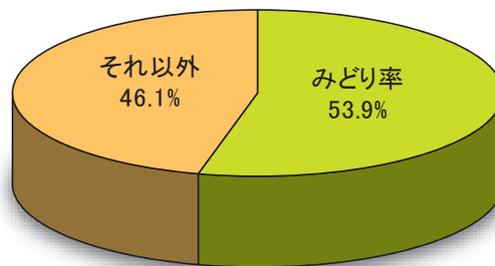


図 2-9 緑被率とみどり率の関係性（出典：緑の東京計画 - H12（東京都））



	みどり率						それ以外
	樹林地 (公園以外)	草地 (公園以外)	農地 (公園以外)	屋上緑化 (公園以外)	公園	水面 (公園以外)	
面積 (ha)	525.2	222.6	31.8	1.3	324.4	30.6	972.1
	1135.9						
割合 (%)	24.9	10.6	1.5	0.1	15.4	1.4	46.1
	53.9						

図 2-10 みどり率の割合（出典：みどりの現況調査 - H22（多摩市））

## 2) 緑被率（参考値）

平成 21 年 11 月 4 日の衛星画像をもとに樹木被覆地、草地、農地、屋上緑化地を緑被地として分析したところ、市全域の面積 2,108ha のうち緑被地の面積は 919.2ha で緑被率は 43.6% となっています。

表 2-1 多摩市の緑被率（出典：みどりの現況調査 - H22（多摩市））

区分項目	面積 (ha)	割合 (%)
樹木被覆地	638.8	30.3
緑被 草地	246.8	11.7
農地	32.4	1.5
屋上緑化	1.3	0.1
緑被計	919.3	43.6
市域面積	2108.0	-

### 【参考】町丁目別の緑被状況

町丁目別の緑被状況を見ると、緑被率が最も高いのは都立桜ヶ丘公園を有する連光寺 5 丁目 (37.0ha) で 86.5% (32.0ha)、次いで、桜ヶ丘カントリークラブを有する連光寺 (114.0ha) が、80.9% (92.2ha)、府中カントリークラブを有する中沢 1 丁目 (60.0ha) が 78.2% (46.9ha) となっています。

一方、緑被率が最も低いのは、聖蹟桜ヶ丘駅周辺の関戸 4 丁目 (12.0ha) で 8.0% (1.0ha)、次いで、関戸 2 丁目 (16.0ha) で 10.0% (1.6ha) となっています。

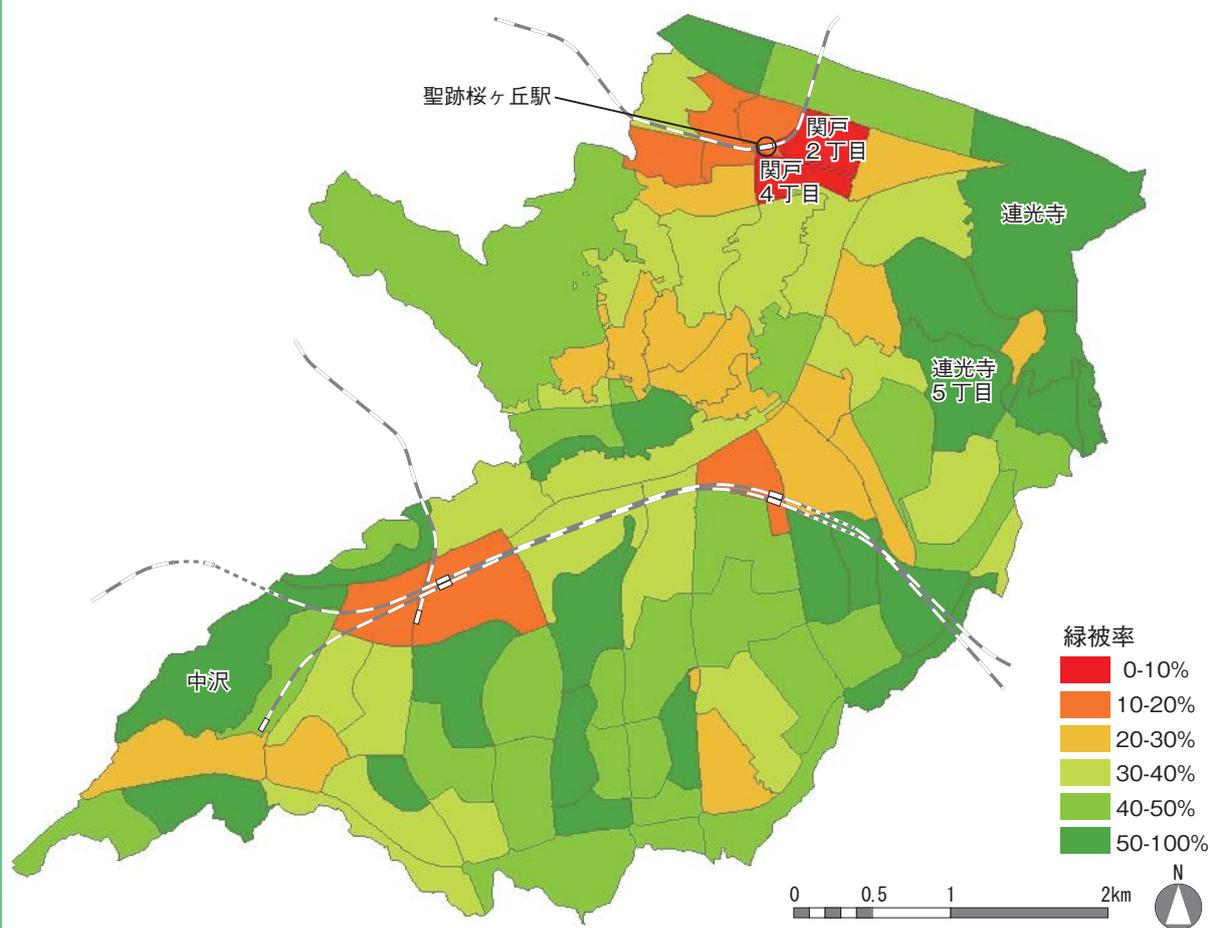


図 2-11 町丁目別の緑被率（出典：みどりの現況調査 - H22（多摩市））